

# 平成27年度 事業報告

## 1 事業報告の概要

当会の基本理念である「支え合い 共に生きる 住みよい地域づくり」を推進するにあたり、北海道でも有数の豪雪地帯としての地域課題である除雪対策について、高齢者や障がい者等要援護者の方々が可能な限り在宅で暮らすことが出来るよう、個人・団体・学校等による除雪ボランティアの事前登録及び町会・自治会を中心とした地域での除雪支援を岩見沢市と連携を図りながら実践してまいりました。

また、岩見沢市における高齢化率が32.5%に達し、高齢化社会の進展にともない、認知症高齢者や障がい者の権利擁護問題など、地域における多様な生活課題の解決に向けて積極的に取り組むべく、北海道社会福祉協議会と岩見沢市より、日常生活自立支援事業、市民後見推進事業を引き続き受託し、市民後見人養成講座や市民後見人養成講座の修了者を対象とした市民後見人養成講座（フォローアップ編）を開催するとともに、成年後見制度・市民後見人講演会を開催し、市民後見人の養成及び制度の普及・啓発を図りました。また、平成28年度の成年後見実施機関開設に向け、開設準備委員会にて岩見沢にふさわしい市民後見の仕組みについて協議し、事業の推進に努めました。

以下、平成27年度事業計画に沿った推進項目について報告をいたします。

### 【事業推進項目】

## 2 組織の強化と人材の育成

当会としての役割を果たし、安定的かつ持続的な財源の確保や将来を見据えた人材の育成を図り、地域福祉を専門的な視野で捉えるため、各種研修会や講習会に積極的に参加、受講できる環境づくり、体制づくりに取り組んだ。

また、社協だよりやホームページを通じて、当会が取り組む事業内容等を積極的に市民及び地域に情報発信し、当会及び地域福祉活動への理解を高めた。

### (1) 安定的かつ持続的な財源の確保

慶弔寄附等をはじめとする寄附について、市民の社会福祉に対する理解を得るとともに、会員会費制の加入促進及び共同募金の趣旨啓発に努めた。また、赤い羽根共同募金ご当地ピンバッチを作成し財源の確保に努めた。

① 香典返し寄附金	46 件	1,410,000 円
② 一般寄附金	35 件	512,081 円
③ 一般会員 (1 世帯年額 100 円)	253 町会 27,711 世帯)	2,771,100 円
④ 特別会員 (1 口年額 5,000 円)	38 団体 61 口)	305,000 円
⑤ 賛助会員 (1 口年額 1,000 円)	294 人 453 口)	453,000 円
⑥ 企業会員 (1 口年額 10,000 円)	35 社 39 口)	390,000 円
⑦ 共同募金	一般募金 (赤い羽根)	8,696,492 円
	歳末たすけあい	8,047,632 円

### (2) 各種調査と研究の実施並びに各種研修会等への参加

#### ① 北海道社協空知地区事務所及び空知地区社協連絡協議会との連携

- (ア) 北海道社協空知地区事務所と連携を図るとともに、空知地区社協連絡協議会による会長・事務局長会議、役職員研修等に参加し情報交換を行い、連携を図った。
- (イ) 管内の市町社協活動について、研修会等に参加し、住民福祉活動のあり方につ

いて他市町の状況を研修した。

- ・地域の支え合い活動を考えるセミナー
- ・「安心・安全・福祉のまちづくり活動」空知地区推進会議
- ・「地域に理解され支持される社協づくり研修会」

- (ウ) 近隣市町社協との情報交換に努め、課題解決の参考とした。
- ・空知管内社協職員連絡協議会
- ② 北海道社会福祉協議会が主催する研修会への役職員の参加  
研修会へ役職員が参加し、それぞれが情報収集や研鑽に努めた。
- ・全道市町村社協会長・事務局長研究協議会
  - ・法人役員研修(社協)
  - ・北海道社会福祉大会
- ③ 部会及び委員会での調査、研究の充実  
総務部会、地域生活福祉部会、介護保険事業運営委員会を開催し、事業の企画及び安定経営を目指した協議を行った。
- ④ 職員の専門性確保と資質向上のための各種研修会等への参加
- ・マイナンバー制度セミナー
  - ・社協活動全国会議
  - ・介護支援専門員研修
  - ・ケアマネージャーのクレーム対応研修
  - ・全道新任社協職員研修会
  - ・空知管内社協職員研修会
  - ・南空知社会福祉協議会災害時相互支援に係る担当者連絡会議
  - ・全道社協職員研究協議会
  - ・生活福祉資金貸付事業研修会
  - ・権利擁護研修会
  - ・北海道地区労使関係セミナー
  - ・管内社協介護保険事業等学習会
  - ・空知地区ボランティア活動推進セミナー
  - ・空知地区ボランティア活動推進会議
  - ・発達支援関係職員専門研修会
  - ・北海道地域福祉生活支援センター自立生活支援専門員研修
  - ・自立生活支援専門員スキルアップ研修ケースカンファレンス in 北海道
  - ・全道福祉の学習推進セミナー
  - ・障がい者就労支援セミナーin 空知
  - ・地域における権利擁護システム構築セミナー
  - ・共同募金実務担当者研究協議会
  - ・赤い羽根セミナー等に参加・受講し専門性の確保と資質向上に努めた。
- ⑤ 他市町社会福祉協議会の視察の受け入れによる情報交換  
他市町社会福祉協議会の視察研修を受け入れ、相互の事業内容や課題について情報交換を行い、今後の法人運営の参考とした。

□10月26日 美深町社会福祉協議会 8人

□10月28日 名寄市社会福祉協議会 14人

### (3) 広報活動の充実

#### ① 「社協だより」の発行

平成27年度から紙面の一部(表紙・裏表紙)をカラーとし、見やすく親しみある紙面づくりに努め、町会・自治会の協力を得て全世帯に配付し、当会事業の理解と福祉情報等の周知を図った。

□発行回数 年3回(7月・12月・3月)

□発行部数 各回 36,500部

- ② ホームページによる情報発信  
活動情報をより早く正確に多くの人々に発信するため、ホームページを活用し、情報提供に努めた。
- ③ 事業活動の理解と地域の福祉実践活動紹介  
ボランティアセンター広報紙「おもいあい」をはじめ、北海道社会福祉協議会発行の各種刊行物、広報紙等をボランティア団体及び関係団体へ配付するとともに、各事業・講習会等においても配付し、福祉実践活動の紹介・啓発に努めた。  
また、北海道社会福祉協議会発行の情報誌「明るい社会」及び福祉機関発行のパンフレットを全民生委員児童委員、理事・監事や関係機関に配付し、地域福祉をとりまく情報提供に努めた。
- ④ 報道機関への情報提供  
各事業、行事の開催ごとに報道機関に取材を依頼し、市民周知に努めた。

### 3 施設の適正な管理運営（岩見沢広域総合福祉センター）

地域福祉活動の拠点施設として活用されるよう、福祉・ボランティア団体等の利用者の利便性の高い運営に努めた。

また、職員・利用者を対象にした消防避難訓練を実施するとともに、前年度に引き続き必要な施設の改修・修繕等を行い、利用者の安全性を確保した施設の管理に努めた。

#### (1) 消防避難訓練の実施

□消防避難訓練 6月22日、11月24日（年2回）

#### (2) 開館時間及び休館日

□開館時間 午前9時から午後9時まで

□開館日数 336日

□休館日 毎月第2・第4日曜日及び12月29日から翌年1月3日まで

#### (3) 施設の改修・修繕

① 館内廊下及びホール照明器具のLED化工事（全館LED化終了）

② 避難誘導灯のLED化工事

③ 暖房温水ポンプ取替工事

#### (4) 年度別利用人員及び年度別年間使用料収入状況

区 分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
利 用 人 員	47,320 人	41,148 人	43,091 人	45,288 人	46,126 人
1日平均利用人数	141.3 人	122.8 人	128.6 人	135.2 人	137.3 人
使用料収入	1,091,785 円	947,590 円	1,063,270 円	976,260 円	970,810 円

## (5) 年度別用途別利用団体数

(単位：件)

区 分	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料
会 議	57	250	69	215	53	167	50	130	92	155
集 会	5	12	7	20	8	14	4	14	5	15
講 習	74	110	35	108	90	109	74	119	18	110
研 修	82	60	67	54	44	57	53	76	52	53
例 会	285	361	284	416	247	430	226	366	265	381
そ の 他	29	312	41	280	63	424	50	410	47	465
小 計	532	1,105	503	1,093	505	1,201	457	1,115	479	1,179
社 協 ・ 町 連 母子寡婦福祉会 更生保護サポートセンター	0	1,819	0	1,661	0	1,713	0	1,692	307	1,616
合 計	3,456		3,257		3,419		3,264		3,581	

## 4 地域福祉の推進

地域のニーズに柔軟に対応した福祉サービス、ボランティア活動の普及、住民主体の地域活動の活性化を図り、地域福祉の推進に努めた。

## (1) 小地域福祉ネットワーク事業の支援

小地域（ふれあい推進協議会・地区協議会・町会・自治会等）を基盤として展開される地域住民の参加と協力による見守り、安否確認活動やゴミ出し、身の世話等を行う在宅福祉活動に対して助成を行い、地域における支え合い活動の活性化と生活課題の発掘に努めた。

□助成金 3,042,270 円

## (2) 地域福祉推進セミナーの開催

地域福祉活動関係者を対象に開催し、地域を取り巻く生活課題・福祉課題の現状や課題解決に向けた取り組みについて理解を深めることで、住民主体の地域福祉活動を促進した。

□3月7日 参加者 137人

実践報告 北新町会 「独居高齢者安否確認声掛け運動」の取組  
地域ふれあいサロン「いきいきサロン・やまと」の取組  
幌向ボランティア「このゆびとまれ」の取組

## (3) 地域ふれあいサロン事業の支援

外出機会が少なく閉じこもりがちな独居高齢者や障がい者、子育て中の親子等を対象に地域でつながりを深め、生きがいのある人生を送られるよう、地域ふれあいサロンの設置及び運営について支援するとともに、サロン活動団体に対して助成を行い、地域における交流の場の普及に努めた。

① 登録サロン数及び助成金額

区 分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
登録サロン数	12 団体	20 団体	24 団体	24 団体	21 団体
助 成 金 額	640,000 円	926,000 円	962,000 円	578,000 円	414,000 円

② 地域ふれあいサロン情報交換会の開催

地域ふれあいサロン実践者を対象に情報交換会を開催し、サロン活動について相互に情報の交換・共有により、今後の活動の更なる充実を図った。

□10月16日 参加者 35人

③ 地域ふれあいサロン研修交流会の開催

サロン活動に関する講話や演習、グループ交流などを通して、地域の活動の活性化と実践者同士のネットワークを構築し、サロン活動に対する理解をより一層深めた。

□1月27日 参加者 45人

講話・演習「地域ふれあいサロンで活かせる読み聞かせ」  
講師 三橋 とら

(4) 地域除排雪支援事業の推進（岩見沢市委託事業）

岩見沢市の委託を受け、自力で除雪が困難である要援護者（町会長や自治会長が認めた世帯）に対して、冬期間における安全確保のため、地域の除雪ボランティアによる日々の除排雪援助活動に助成支援を行った。

□対象世帯 1,219 世帯 助成金 6,304,700 円

(5) レクリエーション用具貸出事業

市内の町会や自治会、ふれあいサロン等に紅白玉入れや童話かるた等のレクリエーション用具の貸出を行い、地域交流の促進、活性化を図った。

□貸出件数 延 44 件

(6) 地域福祉出前講座の実施

町会をはじめとする福祉団体等の要望に沿い、当会職員が講師となり「地域福祉出前講座」を実施し、地域住民の福祉に対する関心や知識を深めた。

□内容 「日常生活自立支援事業について」  
「介護講習会」 外 8 回

(7) 町会組織等と連携した地域福祉活動の推進

町会連合会・民生委員児童委員協議会等の協力を得て、町会・自治会を中心に、地域福祉に関する啓発活動・調査活動等を推進するとともに、「赤い羽根共同募金運動」、「歳末たすけあい運動」等にも成果を上げることができた。

(8) 社会福祉功労者表彰の実施及び推薦

当会顕彰規程に基づき、永年にわたり地域及びボランティア活動等にご尽力し、地域福祉の向上に寄与された個人及び団体をたたえ、表彰を行うとともに、市内社会福祉関係者及び関係団体が、永年の社会福祉活動の功績により表彰された。

① 社会福祉関係功労者表彰者

(敬称略)

功績表彰	善行感謝		ボランティア 功労賞	永年勤続表彰
大谷 ヒサコ 島 捨 夫 佐坂 茂 男 高松 榮 子	ホール岩見沢 歌フェスティバル 実行委員会 S.T.S 岩奨会 金田 悦美子 藤井 慶子 窪田 勝利子	広川 恵子 武田 幸雄 中村 潔 長井 保雄 JAいわみざわ 女性部西川班 桜木 団地 「花の会」 風間 寛子 秋葉 榮 祁答院 三千子 仲田 敏博 浦 雅子	加勢 織江 三上 敏子	藤井 聡美 金子 朋美 横田 晃嗣 西原 潤子 小林 結華 伊藤 篤子 林 由美子

□10月30日 功績表彰(4人) 善行感謝(13人・4団体)  
ボランティア功労賞(2人) 永年勤続表彰(7人)

② 北海道空知総合振興局長表彰(社会事業功労者・民生委員児童委員功労)

藤田 政利・三浦 幸子・高岡 いづみ

□7月28日(安全・安心・福祉のまちづくり活動空知地区推進会議席上)

③ 北海道社会貢献賞(北海道知事表彰・民生委員児童委員功労)

高柳 憲雄・池田 瑠美子

□8月27日(北海道社会福祉大会席上)

④ 北海道社会福祉協議会会長表彰

(社会福祉協議会役員功労・民生委員児童委員功労・社会福祉協議会職員功労)

藤田 政利・三浦 幸子・高岡 いづみ・川口 孝子

□8月27日(北海道社会福祉大会席上)

⑤ 北海道共同募金会会長表彰(共同募金運動優秀学校)

北海道岩見沢農業高等学校ボランティア・ユネスコ部

□8月27日(北海道社会福祉大会席上)

5 高齢者の生きがい・健康づくりの推進

(1) 高齢者の生きがい・健康づくり事業への助成

高齢者の生きがいの場づくり、岩見沢市老人クラブ連合会が主催する各種事業等  
に対して助成を行った。

□趣味と教養部会発表会	助成金	30,000円
□岩見沢シニア交流	助成金	80,000円
□囲碁将棋大会	助成金	20,000円
□あんま・マッサージ無料奉仕事業	助成金	25,000円

(2) 金婚祝賀会の開催(岩見沢市委託事業)

結婚生活50年を迎えた方々をお招きし、7月27日、ホテルサンプラザにて「第  
42回金婚を祝う会」を開催した。

□該当者 209組 418人 出席者 124組と2人の250人

(前 年 184 組 368 人 出席者 111 組と 6 人の 228 人)

(3) 男性のための料理教室の開催

料理を通しての「食」の重要性を認識し、仲間づくり、家庭生活での自立支援を行った。  
 参加者 16 人

講 師 ボランティアセンター ボランティアコーディネーター

(4) 介護者誕生日祝金贈呈事業

在宅で体の不自由な高齢者や障がい者の介護を支える家族のご苦勞に対して、祝金の贈呈を行った。  
 2 人 20,000 円

(5) 日常生活用具助成事業

日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に交付及び助成を行った。

杖助成 19 人  アイビッド助成 13 人

## 6 地域における権利擁護の推進

(1) 日常生活自立支援事業の実施（北海道社会福祉協議会委託事業）

認知症、知的障がい、精神障がい等により、判断能力が不十分で日常生活に支障のある方に対し、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等の支援を行い、日常生活の自立支援に努めた。

利用契約者件数

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合 計
相 談 件 数	478 件	88 件	301 件	23 件	890 件
新規利用契約件数	4 件	1 件	1 件	0 件	6 件
解 約 件 数	2 件	0 件	3 件	0 件	5 件
利用契約件数	12 件	2 件	3 件	0 件	17 件
生活支援員数	19 人（実動 10 人）				
社 協 預 かり	通帳 10 冊・印鑑 1 本				

(2) 市民後見推進事業の実施（岩見沢市委託事業）

誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指すため、認知症や知的・精神障がい等により判断能力が十分でない人が成年後見制度を適切に利用できるよう成年後見制度の普及啓発を行うとともに、社会的経験や知識を活かし、同じ市民という立場で後見人活動を行う市民後見人を養成するための研修を実施した。

また、市民後見人の活動を支援する組織体制を構築するために後見実施機関開設準備委員会を設置し、検討を行った。

① 岩見沢市後見実施機関開設準備委員会の開催

平成 28 年度に予定する後見実施機関の立ち上げに向けて委員会を設置し、具体的な組織体制の構築に向けて検討を行った。（委員 8 名 弁護士、司法書士、社会福祉士、地域包括支援センター職員、高齢者事業所職員、障がい者施設職員、学識経験者）  
 7 月 13 日～10 月 21 日（全 5 回開催）

② 先進地視察研修の実施

道内において先駆的に市民後見に関する取り組みを進めている帯広市、釧路市の成年後見支援センターを視察し、後見実施機関の運営体制や業務内容、課題等について調査・研究を行った。

7 月 29 日 帯広市成年後見支援センター「みまもーる」

7 月 30 日 釧路市権利擁護成年後見センター

- ③ 成年後見制度・市民後見人講演会の開催  
市民に対して、成年後見制度の仕組みや市民後見人の果たす役割や必要性について普及啓発を図った。

□9月20日 参加者 200人  
「講談から学ぶ成年後見制度」  
講師 講談師 神田織音 氏  
「市民後見の役割と今後期待されること」  
講師 前 旭川大学教授 白戸一秀 氏

- ④ 市民後見人養成のための講座の開催  
成年後見制度の担い手として、身近な地域住民の感覚を活かした市民後見人を養成することを目的に養成講座を開催した。  
また、養成講座を全単位取得し、市民後見人として活動する意思のある方を対象に、市民後見人として必要となる知識やより具体的な実務等を学ぶ、フォローアップ講座を開催した。  
□10月17日～12月5日 市民後見人養成講座（全8回31単位）修了者19人  
□1月28日～2月18日 市民後見人養成講座（フォローアップ編）  
（全4回16単位）修了者15人

- (3) 精神保健ボランティア講座の開催  
精神に障がいを抱える方々が、地域において孤立することなく、豊かな地域生活を送ることができるように、精神保健福祉、精神障がいについて正しく理解し、その橋渡し役としての精神保健ボランティアの養成を行った。  
□6月18日～7月2日（全3回） 受講者6人

- (4) 認知症サポーター養成講座の開催  
認知症についての正しい理解を持ち、認知症の方や家族を支援するよき理解者として地域で支え合う人材の養成を行った。  
□12月17日 受講者31人

## 7 ボランティア活動の振興と福祉教育の推進

- (1) ボランティアセンターの運営  
岩見沢市におけるボランティア活動の推進拠点として、各ボランティア活動団体と関係機関との連携、情報交換、連絡調整、養成研修、相談などの機能充実を図るとともに、随時、機会を捉えてボランティア活動の地域への普及と市民に信頼される社協ボランティアセンターの運営に努めた。  
□定例会の開催（月1回）・運営委員会の開催（年2回）・運営部会の開催（随時）

### ① ボランティア登録団体・個人数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
団体登録数	33団体	29団体	27団体	25団体	27団体
個人登録数	6人	12人	8人	9人	10人

### ② ボランティア相談・連絡調整件数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
相談件数	49件	35件	23件	38件	27件
連絡調整件数	15件	12件	12件	10件	8件

- ③ ボランティア派遣支援  
高齢者や障がい者、その家族の日常の負担軽減を図るため、車いす介助、視力障



がい者介助、手話通訳等のボランティア派遣を行った。 □延 81人

④ ボランティアセンターに関する広報活動

「社協だより」(年3回)の紙面を活用するとともに、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター広報紙「おもいあい」(年3回)を発行、市内の公共機関等に配付、設置しボランティア活動の周知啓発に努めた。

⑤ 空知地区ボランティア活動者推進セミナーへの参加

ボランティア活動者の資質向上、管内におけるボランティアネットワークの促進を図った。 □「空知地区ボランティア活動者推進セミナー」 (美唄市)

11月10日 参加者44人

⑥ ボランティア愛ランド北海道への参加

「ボランティア愛ランド北海道2015inねむろ」(根室市)に岩見沢市のボランティア活動者の参加を促し、全道のボランティア実践者等とボランティア活動における課題等について研究協議を行い、研修交流を図った。

□9月20日 参加者12人

⑦ 他市町社会福祉協議会ボランティアセンターへの視察研修の実施

ボランティアコーディネーターとしての資質向上を図ることを目的に、他市町ボランティアセンターを視察し、ボランティアセンターの運営方法、課題等を調査した。

□10月28日 石狩市社会福祉協議会ボランティアセンター  
当別町社会福祉協議会ボランティアセンター

⑧ ボランティア活動保険等の加入促進

市内で活動するボランティア団体・個人が安心して活動するために、全社協「ボランティア活動保険」の加入促進と保険料の助成を行った。

また、当会除雪ボランティア活動者や被災地支援ボランティア活動者に対して、保険料の助成を行った。

□ボランティア活動保険	社協負担	一 般	個人12人	団体24	(506人)
		災 害	個人2人		
		除 雪	個人2人	団体1	(20人)
		自己負担	個人12人	団体24	(435人)
□ボランティア行事用保険	社協負担	一 般		団体1	(63人)
		自己負担		団体8	(419人)
□福祉サービス総合保険	自己負担			団体4	(92人)
				合計	1,563人

⑨ ボランティア団体・福祉団体等への助成

ボランティア団体・福祉団体の育成、活性化促進を図るため、ボランティア活動費の助成を行った。

□ボランティア団体助成 15団体 助成金150,000円

□福祉団体助成 8団体 助成金280,000円

⑩ 手話奉仕員養成講座の開催

聴覚障がいに対する理解促進と聴覚障がいの社会参加、日常生活を援助する手話奉仕員を養成することを目的として、4月15日から12月9日まで「手話奉仕員養成講座」を開催した。

□昼の部(全34回) 受講者12人 修了証書交付8人(27回以上出席者)

□夜の部( " ) " 18人 " 11人( " )

⑪ 傾聴ボランティア講座の開催

傾聴についての知識や技術、心構えを学び、地域や施設において活動する傾聴ボランティア養成を行った。

□6月2日～6月24日(全4回) 受講者16人

⑫ 点訳ボランティア講座の開催

視覚に障がいがある方の情報収集の手段のひとつとしての「点訳(点字)」について、基本的な心構えと知識、点訳の基礎的な技術とその手順や方法を学習し、ボラン

ティア活動者の掘り起しを行った。

□7月1日～7月15日（全3回） 受講者9人

⑬ ボランティア活動者交流会の開催

ボランティアセンター登録団体及び個人の活動者の情報交換、交流を通し、様々な分野でのボランティア活動の状況を把握することにより、今後の活動のネットワークづくりを図った。

□7月3日 参加者95人

⑭ やさしい在宅介護講習会の開催

在宅で介護に取り組む方々の日常の悩みや負担を少しでも軽減し、家庭や地域で孤立することなく豊かな生活ができるようにすることを目的に、在宅介護に関する講話や一般的な介護方法等について演習による講習会を開催した。

□10月13日～10月20日（全2回） 受講者12人

講師 居宅介護支援課、通所介護課職員

⑮ ボランティア活動者研修会の開催

各ボランティア活動者が、地域に根付いたボランティア活動のあり方を学び、スキルアップを図り、今後のボランティア活動の充実に役立てた。

□2月26日 参加者77人

演習 「ふまねっとでつながる笑顔のボランティア」

講師 ふまねっと岩見沢「円」

⑯ 除雪ボランティア派遣支援

除雪ボランティア活動希望者（事業所や団体、学校、個人等）を事前に募集・登録し、市と連携を図り、自力で除雪が困難かつ家族や親類及び町会・自治会からの協力が得られない要援護世帯（高齢者・障がい者）に対してボランティアを派遣し、間口の拡幅や暖房器具の給排気筒等の安全確保のため、除雪支援を実施した。

□登録数 4団体（76人）・個人2人

□活動件数 延 99件 活動者 延 317人

⑰ 災害時における災害ボランティア体制の構築

平成26年12月1日に締結した南空知9市町社会福祉協議会災害時相互支援協定に基づき、担当者連絡会議（全3回）において、災害ボランティアセンターの役割、活動内容等の災害ボランティアセンター運営マニュアル（案）を作成した。

また、岩見沢市主催で開催された北盛地区の市民防災訓練にてボランティアセンタースタッフとともに車椅子とガイドヘルプの体験ブースを開設し、参加・協力を行った。

⑱ 小中高等学校のボランティア活動への支援

市内小学校、中学校及び高等学校の児童・生徒の社会福祉への理解と関心を高め、実践活動によりボランティアの心と社会連携の精神を養うことを目的に、各学校における福祉教育のボランティア活動実践活動費の助成を行った。

□小・中・高校 25校 625,000円

また、道社協が実施している学童・生徒のボランティア活動普及事業の協力校として、北村中学校が再指定を受けた。（再指定期間：平成27年度～29年度）

⑲ 児童・生徒のボランティア体験研修会の開催

市内中学校・高等学校の生徒を対象に、ボランティア活動者をはじめ様々な分野の地域活動者とのグループワークを通じた交流・協働により、ボランティア意識と豊かな人間性の育成を図った。

□8月7日 参加者52人（生徒28人、ボランティア活動者24人）

⑳ 指定地域福祉教育セミナーの開催

指定校のボランティア担当者とボランティア関係者や福祉・教育関係者等を対象に、今後の子供たちの福祉の学習やボランティア活動の展開をより深めることを目的に「指定地域福祉教育セミナー」を開催した。

□11月20日 参加者18人

② 地域福祉教育推進事業の実施

各学校からの福祉体験学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師として派遣することで、効果的な福祉学習を実施し、ノーマライゼーションの理念普及に努めた。

□延 90人

□福祉体験学習実施状況

月 日	学 校 名	学年・人数	学 習 内 容
7月 9日	中央小学校	3年生 56名	車いす体験と車いす利用者との交流
7月 19日	中央小学校	3年生 56名	視力障がい者の講話とアイマスク（ガイドヘルプ）体験
9月 8日	北真小学校	5年生 12名	視力障がい者の講話とアイマスク（ガイドヘルプ）体験
9月 11日	北真小学校	5年生 12名	車いす体験と車いす利用者との交流
9月 15日	月形小学校	3年生 14名	聴覚障がい者の講話と手話体験
9月 25日	日の出小学校	6年生 70名	聴覚障がい者の講話と手話体験
9月 29日	西高等学校	3年生 45名	聴覚障がい者の講話と手話体験
10月 9日	美流渡中学校	全校生徒 12名	高齢者疑似体験
11月 6日	北真小学校	6年生 24名	高齢者疑似体験
12月 2日	第一小学校	6年生 64名	高齢者疑似体験
12月 4日	日の出小学校	5年生 67名	視力障がい者の講話と点訳体験
12月 8日	栗沢小学校	2年生 38名	視力障がい者支援
		3年生 35名	聴覚障がい者支援
12月 11日	緑中学校	全校生徒 270名	視力障がい者の講話とアイマスク（ガイドヘルプ）体験
2月 9日	第二小学校	4年生 22名	車いす体験と車いす利用者との交流
		6年生 35名	
2月 16日	日の出小学校	3年生 56名	視力障がい者の講話とアイマスク（ガイドヘルプ）体験
2月 19日	日の出小学校	4年生 70名	車いす体験と車いす利用者との交流
2月 23日	第二小学校	4年生 22名	聴覚障がい者の講話と手話体験
3月 4日	第一小学校	5年生 77名	車いす体験と車いす利用者との交流
3月 9日	第二小学校	6年生 35名	高齢者疑似体験
年間合計人数		1,092名	

② 地域福祉教育推進事業による協力

市内の4高校（農業高校ボランティア・ユネスコ部、緑陵高校ボランティア部、東高校ボランティア部、高等養護学校生徒会執行部）の生徒が行う「第4回復興支援東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」の企画、金銭管理、助言指導などの支援を行い、高校生のボランティア活動、社会参加活動についての取組みを支援した。

8 生活困窮者への支援

(1) 生活福祉資金貸付の実施

道社協からの委託業務である、低所得世帯や求職者等の自立に必要な生活福祉資金の貸付相談事務を実施するとともに、民生委員児童委員、岩見沢市生活サポートセンター「りんく」、ハローワーク、市保護課等の関係機関と連携し、経済的自立及び生活意欲の助長促進に努めた。

また、償還滞納世帯等に対して、文書及び訪問による指導、催促を行った。

□平成 27 年度貸付件数及び金額

資金名	資金の種類	件数	貸付金額
福祉費	その他経費	1 件	200,000 円
	緊急小口資金	4 件	390,000 円
教育支援資金	教育支援費	2 件	3,295,000 円
	修学支度費	2 件	596,000 円
合計		9 件	4,481,000 円

(2) 愛情銀行緊急生活費交付事業

生活福祉資金の貸付要件に合致せず、やむを得ない事情により緊急に生活費が不足した者に緊急生活費の貸付支援を行った。 □2 件 15,000 円

(3) 法外援護事業への貸付及び交付

生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金及び金銭不所持者等の送還旅費について市福祉事務所を通じて貸付及び交付した。 □生活つなぎ資金 59 件 881,000 円  
□送還旅費 12 件 10,840 円

## 9 相談支援体制の充実

(1) ふれあい相談員による福祉相談の支援推進

民生委員児童委員に「ふれあい相談員」を委嘱し、地域における身近な相談窓口として、相談支援の充実を図った。

(2) 移動心配ごと相談所の実施

心配ごと相談所運営規程に基づき、民生委員児童委員 14 人、学識経験者 2 人、計 16 人を心配ごと相談員に委嘱し、市民の日常生活における心配ごとの解決や軽減、専門機関等への橋渡しを目的に、地域の方々が気軽に相談できるよう、市内各所で移動心配ごと相談所を実施した。

□高齢者福祉センター「ふれあい」 1 回  
□高齢者福祉センター「えみる」 2 回  
□栗沢市民センター 1 回  
□美流渡コミュニティセンター 1 回  
□幌向総合コミュニティセンター 1 回  
□計 6 回実施 相談件数 2 件

## 10 介護保険制度等に基づく各種事業経営の取組み

居宅介護支援事業、訪問介護事業及び通所介護事業の三事業を実施し、介護給付対象者には利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるとともに、地域包括支援センターとの連携により予防給付対象者の自立支援に向けたサービス提供に努めた。

(1) 居宅介護支援事業

介護支援専門員（ケアマネジャー）9 人により要支援・要介護認定者の自立した在宅生活支援のサービス利用の基本となる、居宅サービス計画書（ケアプラン）の作成に努めた。

□要介護ケアプラン作成数 3,288 人（月平均 274.0 人） 前年度 3,344 人  
□予防プラン作成数 728 人（月平均 60.7 人） 前年度 617 人

(2) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

在宅で日常生活に支障のある高齢者等に対し、介護保険制度による居宅介護サービス計画に基づき訪問介護員（ホームヘルパー）を派遣し、生活援助・身体介護等のサービス提供による自立した生活支援に努めた。

常勤ホームヘルパー 7人 パートヘルパー 19人

介護利用者数延 1,486人、延利用回数 12,219回（月平均 123.8人 1,018回）

（前年度 1,519人、延利用回数 13,266回（月平均 126.6人 1,106回））

(3) 通所介護事業（栗沢・美流渡デイサービスセンター）

利用者一人一人の心身の状態やニーズに合ったサービス提供に努めた。

また、運営の効率化と関係職員の資質向上に向けた指導と研修を随時実施したほか、利用者及び家族の方々の、子ども盆踊りを開催するなど地域に愛される事業所づくりに努めた。

① 栗沢デイサービスセンター

営業日数（月曜日～金曜日）260日（土曜日）51日

通所利用者数延（月曜日～金曜日）5,137人（土曜日）610人

1日平均利用者数（月曜日～金曜日）19.8人（土曜日）12.0人

職員配置数（月曜日～金曜日）9人（土曜日）6人

② 美流渡デイサービスセンター

営業日数（月曜日、水曜日、金曜日）149日

通所利用者数延 963人

1日平均利用者数 6.5人

職員配置数 3人

1.1 障害者総合支援法及び児童福祉法による障がい者福祉サービス事業並びに障がい者(児)福祉の推進

(1) 相談支援事業

障がい者の自立した日常生活や社会生活への支援及び障がい者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、相談支援専門員（専従1名・兼務3名）がケアマネジメントによりサービス等利用計画の作成及びモニタリングを行った。

障がい者 利用計画 217件（月平均 18.1件）

モニタリング 266件（月平均 22.2件）

障がい児 利用計画 236件（月平均 19.7件）

モニタリング 130件（月平均 10.8件）

(2) 障がい者居宅介護事業（ヘルパー派遣）

在宅で日常生活に支援が必要な身体障がい者・知的障がい者及び精神障がい者に対して、訪問介護員（ホームヘルパー）を派遣し、生活援助・身体介護等を通じて在宅福祉サービスの提供による自立した生活支援に努めた。

利用者数延べ 422人 月平均利用者数 35.2人

(3) 子ども発達支援センターつみき園

① 通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）の実施

発達の遅れや偏り、障がいのある0～18歳の幼児・児童及び生徒を対象に基本的動作等の訓練や保育を通じた発達支援の提供に努めた。

登録児数 189人

児童発達支援事業 利用者数延 3,713人（一日平均 16.0人）

放課後等デイサービス 利用者数延 594人（一日平均 2.6人）

□合計利用者数延 4,307 人（一日平均 18.6 人）

② 子ども発達支援センター事業（岩見沢市委託事業）

岩見沢市より委託を受け、岩見沢地域（岩見沢市、三笠市、月形町）における子どもの発達支援にかかるニーズを的確かつ迅速に把握するため、児童相談所、保健センター、学校、幼稚園、保育所等関係機関と連携し、情報共有を図り、発達に遅れや偏りのある児童及びその保護者に対し、個々の状況に応じた相談・支援の提供に努めた。

□関係機関連携数 32 機関（延 135 回）

□発達支援に関する相談件数

- ・つみき園通園幼児 106 人（延 299 件）
- ・未通園幼児 321 人（延 627 件）
- ・つみき園通園学齢 43 人（延 91 件）
- ・未通園学齢 27 人（延 50 件）
- ・合計 497 人（延 1,067 件）

## 1.2 産前産後ヘルパー事業の実施（岩見沢市委託事業）

岩見沢市の委託を受け、体調不良や家族等の援助を受けられない産前産後の子育て家庭への精神的・肉体的負担を軽減し、安心して出産を迎え、子育てができるようにヘルパーを派遣し、家事・育児の支援を行う体制を整備した。

## 1.3 愛情銀行の運営

市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄附及び預託を受け、真に必要な方々への交付提供を行った。 別紙資料

## 1.4 車椅子の貸出

傷病等の理由により一時的に車椅子が必要になった方や、彩花まつり、ふるさと百餅祭り等のイベントに車椅子を貸出し、日常生活の向上や社会参加の促進、在宅介護への負担軽減に努めた。

また、小中高等学校の福祉体験学習にも貸出しを行い、効果的な福祉教育に活用した。

○車椅子貸出状況

年 度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
貸出件数	112 件	99 件	76 件	119 件	112 件
貸出台数	254 台	219 台	183 台	233 台	222 台

## 1.5 協賛・後援

事業の協賛・後援により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

(1) 協賛

第 30 回いわみざわ健康まつり 6 月 28 日

(2) 後援

① チャリティー コロムビア演歌まつり in 岩見沢 8 月 21 日

② いきいき健康フェア 8 月 22 日

- ③ まちなか朝市 8月28・29日 9月25・26日 10月23・24日
- ④ 第42回「劇団カップ座公演」 8月29日
- ⑤ 第15回ふれあい健康まつり 9月5日
- ⑥ 第52回全道老人クラブ大会 9月24日
- ⑦ 第42回空知管内身体障がい者スポーツ大会 9月27日
- ⑧ 健康と福祉を高めるセミナー 10月8日
- ⑨ 岩見沢ろうあ協会創立50周年記念事業 11月3日
- ⑩ プロジェクトXmas2015 11月28日～平成28年1月24日
- ⑪ 福祉講演会「高齢者の貧困と孤立問題を考える」 平成28年4月17日
- ⑫ 第69回花まつり 平成28年5月14日

## 1.6 指定管理者制度による管理受託施設利用状況

指定管理者制度による受託施設（岩見沢市高齢者福祉センターふれあい、岩見沢市栗沢福祉団体活動センター、栗沢・美流渡デイサービスセンター）について、利用者のニーズに応じた円滑な運営と安全管理の徹底に努めた。

### (1) 高齢者福祉センターふれあい

- ① 指定管理受託日：平成26年4月1日
- ② 開館日：月曜日～土曜日まで 294日
- ③ 利用時間帯：午前9時～午後5時まで（入浴時間は正午から午後3時）
- ④ 職員配置：センター長 1人  
嘱託職員 1人  
臨時職員 3人  
パート職員 2人

### ⑤ 平成27年度利用者数

区分	一般利用人数		部会等利用人数		総計	
利用人数	20,281人		17,984人		38,265人	
男女別利用人数	男性	11,780人	男性	8,864人	男性	20,644人
	女性	8,501人	女性	9,120人	女性	17,621人
1日平均	69.0人		61.2人		130.2人	

### ⑥ 平成27年度趣味と教養部会 利用状況

部会名	利用回数	利用人数	部会名	利用回数	利用人数
カラオケ部会	37回	2,606人	謡吟会	16回	43人
民謡・伴奏部会	33回	316人	太鼓部会	45回	386人
俳句部会	11回	79人	民謡踊部会	49回	908人
卓球部会	46回	2,015人	華道部会	17回	172人
書道部会	47回	562人	ふまねつと部会	21回	164人
詩吟部会	26回	116人	陶芸部会	188回	3,347人
手芸部会	37回	294人	囲碁同好会	242回	3,438人
木彫部会	40回	185人	新将棋愛好会	242回	1,932人
剣詩舞吟遊会	23回	172人	小計	1,189回	17,847人
ダンス部会	44回	948人	オモチャの病院	47回	137人
茶道部会	25回	164人			
合計				1,236回	17,984人

⑦主な行事

(7) 趣味と教養部会の発表会開催 4月23日、24日	418人	
・展示発表 6部会 354点の展示		
・舞台発表 7部会 24演題の発表		
・土曜初心者陶芸教室 (5、6、9、10月)	年4回	延 20人
(イ) ふれあいコンサート・カラオケの集い (6、7、8、11、1、2、3月)	年7回	延 143人
(ウ) ビデオ映画上映会 (5、6、9、11、12、1、3月)	年7回	延 125人
(エ) 健康相談 (5月、9月、2月)	年3回	延 43人
(オ) 移動心配ごと相談所開設 8月19日 (1回)		
(カ) 高齢者福祉センター「ふれあいまつり」 8月1日		500人
(キ) 大掃除 12月11日		114人
(ク) おたのしみ会 12月19日		54人
(ケ) 市老連女性部笑いヨガ 2月5日		8人

(2) 岩見沢市栗沢福祉団体活動センター

- ① 指定管理受託日：平成26年4月1日
- ② 開館日：月曜日～金曜日まで 252日
- ③ 利用時間帯：午前8時30分～午後5時15分
- ④ 延利用者数：2,485人
- ⑤ 1日平均利用者数：9.9人
- ⑥ 職員配置：1人

(3) 栗沢デイサービスセンター

- ① 指定管理受託日：平成26年4月1日
- ② 営業日数：月曜日～金曜日 260日  
土曜日 51日
- ③ 利用時間帯：午前9時15分～午後4時30分
- ④ 延利用者数：月曜日～金曜日 5,137人  
土曜日 610人
- ⑤ 1日平均利用者数：月曜日～金曜日 19.8人  
土曜日 12.0人
- ⑥ 職員配置：月曜日～金曜日 9人  
土曜日 6人
- ⑦ 定員：月曜日～金曜日 30人  
土曜日 20人

(4) 美流渡デイサービスセンター

- ① 指定管理受託日：平成26年4月1日
- ② 営業日数：月、水、金の3日 149日
- ③ 利用時間帯：午前9時45分～午後3時15分
- ④ 延利用者数：963人
- ⑤ 1日平均利用者数：6.5人
- ⑥ 職員配置：3人
- ⑦ 定員：8人



(5) 岩見沢市栗沢福祉団体活動センターの利用状況

名 称	栗沢福祉団体活動センター
管理受託日	平成 26 年 4 月 1 日
開館日数	252 日
利用人数	年間 2,485 人 1 日平均 9.9 人
職員配置	嘱託職員 1 人 (支所業務と兼務)
営業日	月曜日から金曜日 (祝日を除く) 但し、土・日曜及び 12 月 31 日から 1 月 5 日まで休業
時間	8 時 30 分から 17 時 15 まで
利用団体	<ul style="list-style-type: none"><li>・更生保護女性会</li><li>・老人クラブ連合会</li><li>・いちいの会</li><li>・すみれの会</li><li>・補修ボランティア</li></ul>

(6) 栗沢・美流渡デイサービスセンターの利用状況

名 称	栗沢デイサービスセンター				美流渡デイサービスセンター
管理受託日	平成 26 年 4 月 1 日				平成 26 年 4 月 1 日
区 分	指定通所介護・指定介護予防通所 【通常規模型】・一般型				指定通所介護・指定介護予防通所 【小規模型】・一般型
定 員	月～金曜日 30 人(1 単位目) 土曜日 20 人(2 単位目)				1 日 8 人
利用人数	年 間	月～金	土		営業日数 149 日 実人数 162 人 延人数 963 人 1 日平均 6.5 人
	営業日数	311 日	260 日	51 日	
	実人数	701 人			
	延人数	5,747 人	5,137 人	610 人	
	1 日平均		19.8 人	12.0 人	
職員登録人数	管理者(兼務) 1 人 生活相談員 3 人 介護員 2 人 臨時介護員 10 人 パート看護師 3 人 運転手 1 人				管理者(兼務) 1 人 生活相談員 1 人 臨時介護員 3 人 パート看護婦 2 人
サービス提供時間帯配置基準	月～金曜日 職員配置基準 9 人 土曜日 職員配置基準 6 人				職員配置基準 3 人
営 業 日	月曜日から土曜日 (祝日を含む) (日曜日及び 12 月 31 日から 1 月 3 日まで休業)				月曜日から金曜日 (祝日を除く) (土・日曜及び 12 月 31 日から 1 月 5 日まで休業)
時 間	8 時 30 分から 17 時 45 分まで 【提供時間帯】 9 時 15 分～16 時 30 分の 7.25 時間				8 時 30 分から 17 時 45 分まで 【提供時間帯】 9 時 45 分～15 時 15 分の 5.5 時間
介護内容	日常生活上の援助 (排泄の介助、移動の介助、その他必要な身体介護) 入浴の介護、機能訓練、送迎、食事の介助、相談・助言、 介護の指導、運動機能向上訓練				
利 用 料	介護報酬の告示額による ・法定代理受領分(国保連合会) ・法定代理受領分以外(個人負担)				
そ の 他 の 費 用	食費(1 回につき 590 円)、行事食(1 回につき 640 円) お茶・おやつ代(1 回につき 100 円) オムツ代(実費)、その他通常必要なもの				
区 域	岩見沢市 全 域				岩見沢市の一部地域 (朝日町、奈良町、毛陽町、 栗沢町美流渡、栗沢町万字)

